

平成 18 年度 事業報告

平成 18 年は主婦会館の開館 50 周年の年でした。

「台所の声を政治に」とスローガンをかけ、奥むめおが主婦連合会を組織して消費者運動に取り組む中から活動拠点の必要性が高まり、7 年に及ぶ募金活動を経て昭和 31 年、四谷駅前に主婦会館が誕生しました。以後たくさんの方々からご支援いただき、民間自立の会館として時代に先駆けた取り組みをおこなって今日に至っております。

平成 18 年度は、その 50 周年を記念するイベントを柱として、主婦連合会の活動としての消費者教育・啓発、主婦会館クリニックの運営、各種相談事業、女性の心とからだの健康、子育て、環境問題など多岐にわたる講演会、ワークショップを開催いたしました。

初代館長の奥むめおは会館完成記念のパンフレットに「家庭経済を守り 暮らしと経済を直結させ消費者としての権利を高めることが 主婦連合会と共にこの会館の仕事の主流です」という言葉を寄せています。

今後も常にこの初心を忘れず、消費者を守るための公益事業をすすめて参りたいと思います。

平成 19 年 6 月

財団法人 主婦会館

理事長 正田 彬

管理事項

1. 理事会及び評議員会の運営

理事会 平成 18 年 4 月 10 日 (月) 評議員会 平成 18 年 4 月 11 日 (火)
【議題】 1. 平成 18 年度事業計画案の件 2. 平成 18 年度収支予算案の件 3. 寄付行為変更現状報告について 4. 公益法人制度改革概要について

理事会 平成 18 年 6 月 15 日 (木) 評議員会 平成 18 年 6 月 16 日 (金)
【議題】 1. 評議員改選の件 2. 平成 17 年度事業報告の件 3. 平成 17 年度決算報告の件 4. 平成 18 年度補正予算案の件 5. 寄付行為変更案承認の件

理事会 平成 19 年 3 月 6 日 (火) 評議員会 平成 19 年 3 月 13 日 (火)
【議題】 1. 平成 19 年度事業計画案の件 2. 平成 19 年度収支予算案の件 3. 長期借入金状況報告 4. 財務会計処理方式の変更について 5. 寄付行為変更に伴う今後の処置について 6. その他

2. 庶務事項

- 平成 18 年 4 月 21 日 平成 18 年度事業計画書・収支予算書を厚生労働大臣に提出
- 平成 18 年 6 月 29 日 厚生労働大臣へ寄付行為変更の申請。同 6 月 30 日に認可。
- 平成 18 年 10 月 18～19 日 全国女性会館協議会交流・研究集会 第 50 回全国大会へ参加
会場 主婦会館プラザエフ
- 平成 18 年 11 月 25～26 日 主婦会館 開館 50 周年記念イベント
- 平成 19 年 1 月 30 日 厚生労働省による立入検査（業務及び財産の状況の検査）
- 平成 19 年 3 月 26 日 平成 19 年度事業計画書・収支予算書を厚生労働大臣に提出

3. 役員及び評議員

- (1) 理事 12 名（五十音順）
- | | |
|-------------|------------------|
| 一番ヶ瀬 康子 | 長崎純心大学教授 |
| 大村 昭夫 | 東京建築士会設計競技委員長 |
| 金平 輝子 | 東京都歴史文化財団 顧問 |
| 黒川 輝一（常務理事） | 財団法人主婦会館 事務局長 |
| 品川 尚志 | 日本生活協同組合連合会 専務理事 |
| 正田 彬 | 慶應義塾大学 名誉教授 |
| 曾我 健 | 財団法人NHK交響楽団 名誉顧問 |
| 堤 清二 | 財団法人セゾン文化財団 理事長 |
| 中村 紀伊（理事長） | 主婦連合会 参与 |
| 向笠 慎二 | 株式会社大林組 顧問 |
| 兵頭 美代子 | 主婦連合会 会長 |
| 和田 正江 | 主婦連合会 参与 |
- (2) 監事 2 名
- | | |
|--------|-----------------|
| 鈴木 秀治 | 共栄火災海上保険株式会社相談役 |
| 高野 富士子 | 主婦連合会 専門委員 |

(3) 評議員

20名

碧海 西 癸	消費生活アドバイザー
伊藤 祐 子	企画制作四谷事務所 顧問
大河内 美 保	主婦連合会 副会長
岡田 光一郎	日本税理士会連合会 理事
角田 禮 子	主婦連合会 参与
勝部 三枝子	財団法人消費科学センター 理事長
勝又 三千子	主婦連合会 副会長
条井 大 三	一級建築施工管理技士
込山 俊 朗	株式会社エスプリ 代表取締役社長
佐野 真理子	主婦連合会 事務局長
鈴木 深 雪	生活サポート生活協同組合・東京 理事長
田口 康 雅	弁護士
竹前 ル リ	社団法人家庭問題情報センター 主任相談員
広岡 守 穂	中央大学教授
藤原 房 子	ジャーナリスト
堀口 貞 夫	主婦会館クリニック 所長
三浦 史 郎	株式会社象地域設計 代表取締役
宮崎 治 子	弁護士・学校法人審議会委員
山口 みつ子	財団法人市川房枝記念会 常務理事
山根 香 織	主婦連合会 副会長

4. 機構と職員

総務部		会計	庶務	企画						計
	男	1 (0)	2 (1)							3 (1)
	女	1 (0)	1 (0)	3 (3)						5 (3)
事業部		企画	相 談					講座		
			クリニック	結婚	住宅	税務	法律			夫婦・親子
	男		2 (2)		1 (1)	1 (1)			0	4 (4)
女	3 (2)	7 (7)	3 (3)		1 (1)	3 (3)	1 (1)	4 (4)	22 (21)	
施設運営		フロント	配膳	厨房	レストラン					
	男	5 (0)	3 (3)	6 (2)	1 (1)					15 (6)
	女	2 (0)	1 (1)	1 (0)						4 (1)

() 内は正職員以外

正職員合計 17名 男11名
女6名

平成19年3月31日現在

正職員は3月末をもって総数17名。本年度は延べ2,714名のヘルパーの応援を得て、業務を推進した。

I 相談事業

1. 結婚相談

相談者取扱件数、入会者数は昨年とあまり変化はありませんが、11月に（財）東京都福利厚生事業団が行っている結婚相談室が近日廃止になる為、会員の行き先を案じ主婦会館の結婚相談室に来室されました。その関係で徐々に東京都の職員関係の方々の入会があり現在に至っています。

相談者の年齢層は年々高くなり、30代から40代へ移行しつつあり、中高年で60代の方のお問合せもありました。結婚相談室もこれからの高齢社会を反映しているように思われます。そのような中で大手の結婚相談所やインターネットを通じて気軽に出会いを探すよりも丁寧なかかわりで対応する主婦会館の昔ながらのやり方が、少しずつ見直されているように感じます。

相談日 木曜日 午前10時～午後7時

日曜日 午前10時～午後5時

相談料 1年6ヶ月間 15,000円

担当 清水珠美、中川洋子、星 直代

相談者件数

区分	相談者取扱件数	相談者	
		男	女
4月	122	64	58
5月	123	54	69
6月	142	76	66
7月	103	44	59
8月	140	60	80
9月	118	60	58
10月	134	61	73
11月	124	65	59
12月	81	38	43
1月	102	55	47
2月	146	61	85
3月	142	63	79
計	1477件	701件	776件
追記	相談者取扱件数の中に右を含む ・電話による問い合わせ ・入会者以外の来館者（現状問い合わせ等）		

新規申込者

年齢別調査

区分	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～	計
男	0	0	5	6	6	4	4	25
女	0	3	8	4	2	0	0	17

42名

学歴別調査

区分	中卒	高卒	短大卒	大学卒	大学院卒	各種学校	大中退	計
男	0	3	2	18	2	0	0	25
女	0	4	2	8	0	3	0	17

42名

地域別調査

23区内	18名
都 下	6名
神奈川県	6名
埼玉県	8名
千葉県	3名
静岡県	1名
石川県	0名
合計	42名

2. 主婦会館クリニック（からだと心の診療室）

A. 概要

1968年から開設されたクリニックは、清水昭造医師による子宮がん検診を中心とした女性の健康管理の推進と、奈良林祥医師による性生活のトラブルに悩む人々に対する相談やセックス・カウンセリングという一般医療機関では取り扱うことの難しい問題に対応してきた。

1999年からは、保険診療の中では実行するのが難しい「最低一人15分を確保する完全予約制」により、十分に納得できる診療を目指している。一方、精神・神経が強い影響を受けている心身症

や適応障害・不安障害に対しては 2003 年から心理療法部門も充実し、カウンセリング・行動療法などによる心理療法をあわせて実施している。

なお、当クリニックの女性泌尿器疾患の専門的診療を担当されてきた巴ひかる医師が、2007 年 3 月 31 日付で退職された。

B. 平成 18 年度の概要

新来患者数は平成 11 年度から平成 16 年度まで順調に増加していたが、平成 18 年度は前年度の 326 件から 327 件と横ばいである。延べ診療時間数は祝祭日等の関係で昨年度の 1197 時間から 1174.5 時間と 1.9%減少しており、再診患者は 1802 から 1779 と 1.3%減少しているが、診療時間が減少している為で、下げ止まりが期待される。

週当たりの診療時間数は医師が週 20.5 時間、臨床心理士は 14 時間である。予約が保険診療は一時間に 4 人、カウンセリングは一時間 1 人を原則としているので、診療は週 82 人、カウンセリングは週 18 人の診療は可能であり、現在の平均の週間診療数は 57.6 人、カウンセリングは週平均 6.7 人であり、主婦会館としても当診療室の特徴を周知する努力が必要である。

C. 診療の内容

1) 保険診療

保険診療は疾病の診療である。受診者総数 2150 例の内 1533 例で、新来患者は 173 例である。

内訳は、卵巣機能不全…月経困難症を含む月経異常が 75 例、膣炎・性感染症などの感染症 33 例、子宮筋腫 31 件、附属器腫瘍 11 件、更年期障害 11 例、泌尿器疾患 4 件、精神神経疾患 3 件などである。

2) 自費診療

自費診療は合計 624 例でありそのうち新来患者は 154 例である。相談 57 例（月経に関する事 24 例、更年期について 7 例、その他婦人科疾患の関係する相談 10 例、妊娠についての相談 5 例、家族関係・うつ・DV・性生活・離婚など 6 例）、セカンドオピニオン 5 例、カウンセリング 28 例（性生活 17 例・更年期 3 例・うつ 3 例・家族関係 3 例・DV と摂食障害 2 例）、検診 25 例（子宮頸がん 16 例・体部がん 5 例・性感染症 7 例・その他 2 例）、妊娠検診 13 例、避妊 5 例、性同一性障害 9 例、低用量ピル 2 例。

3) 健康診断

初診再来を合計した検診数は子宮頸がん 40、体部がん 13、卵巣がん 1、乳房 27、性感染症 14、骨粗鬆症 12、その他 1 で総計 96 件である。

がん検診数を昨年と比較すると、表のごとく検診数は変化無く、完全予約制である為、待ち時間が短い事、診療時間を一人 15 分確保しているの、結果を十分納得出来るように説明出来る体制があるので、この点をアピールする方策をとる必要がある。

現在、我が国におけるがん検診の受診率が諸外国に比べ低い事が問題になっている。平成 16 年の子宮がん検診率は全国が 13.6% (東京都は 7.6%)、乳がん検診率は全国が 11.3% (東京都は 4.8%) に過ぎず、諸外国の 70~80% に比べ大きく出遅れている。

これはがん検診の重要性の伝え方のまずさや、女性自身の意識の問題もあると思われるが、婦人科受診に一步踏み出すことへのためらいと共に、病院・診療所に行った時の待ち時間の長さも、がん検診を受ける為に敷居をまたぐことをためらわせられると思われる。

平成 18 年度診療件数

	保険診療	自費診療	相談・カウンセリング	合計
4 月	91	47	34	172
5 月	101	41	37	179
6 月	143	44	35	222
7 月	110	45	34	189
8 月	95	36	29	160
9 月	120	41	33	194
10 月	97	42	25	164
11 月	114	39	27	180
12 月	127	55	17	199
1 月	98	40	20	158
2 月	92	40	25	157
3 月	112	45	19	176
計	1,300	515	335	2,150

(再掲あり)

新患の診療内容

	平成 17 年度	平成 18 年度
新患者数	326 名	327 名
疾患（保険診療）	174	173
相談	62	57
セカンドオピニオン	11	5
カウンセリング	50	49
避妊	5	5
がん検診	34	22
妊娠	3	13
計	326	327

疾患の内訳（件数）

	平成 17 年度	平成 18 年度
内分泌疾患	80	75
月経異常	(36)	(37)
卵巣機能不全	(42)	(35)
その他	(2)	(3)
不妊症	0	9
腫瘍・類腫瘍	117	60
感染症 膣炎・性感染症	55	30
その他の婦人科疾患	22	26
更年期障害	(13)	(12)
性同一性障害	(5)	(9)
その他	(4)	(5)
関連疾患	37	12
精神神経疾患	(11)	(4)
泌尿器疾患	(10)	(4)
その他	(16)	(4)
他科疾患	3	3
その他の疾患	8	1
計（件数）	309	216

がん検診数（件数）

	子宮頸がん	子宮体部がん	卵巣がん	乳がん
平成 17 年	39	14	1	27
平成 18 年	40	13	1	27

担当者及び診療日時

堀口貞夫（産婦人科医師）	月曜日	午前 12 時～午後 4 時	（予約制）
	火曜日	午後 5 時～午後 8 時	（予約制）
	木曜日	午前 12 時～午後 8 時	（予約制）
堀口雅子（産婦人科医師）	月曜日	午後 5 時半～午後 8 時	（予約制）
	金曜日	午前 12 時～午後 4 時	（予約制）
佐々木掌子（カウンセラー）	月曜日	午前 12 時～午後 8 時	（予約制）
村瀬敦子（カウンセラー）	火曜日	午後 5 時～午後 8 時	（予約制）
巴ひかる（泌尿器科医師）	水曜日	午前 10 時～午後 12 時	（予約制） （第 2 第 4 水曜日のみ）
本多洋（産婦人科医師）	水曜日	午後 2 時～午後 4 時	（予約制）
犬飼亜子（カウンセラー）	水曜日	午前 10 時～午後 4 時	（予約制）

* 巴ひかる医師は 3 月末で退職

費用 疾患の診断・治療は保険診療になる。相談・カウンセリングは自費診療である。

3. 税務相談

当館の税務相談は当法人の性格上生活関連の税務相談が極めて多く、特に相続や不動産などを含む資産税及び所得税関係相談が大半を占めている。

納税や税制改革について周知を深めようとする姿勢がうかがえるものであった。

平成 18 年度

相談内容	所得税関連	11 件	
	資産税関連	20 件	
	地方税関連	0 件	
	法人税関連	2 件	
	その他	2 件	合計 35 件
相談日	毎月第 1 金曜日	午後 1 時～午後 4 時	
相談料	無 料		
担 当	日本税理士会連合会所属税理士		
	全国税理士法人所属税理士		延 27 名

4. 住宅相談

主婦会館 50 周年イベントの一環として 11 月 26 日に「マンション維持管理講座・公開相談会」を実施致しました。

定例の住宅相談においては、より快適で安全な住まいのあり方を追求し実現するための技術的、経済的な問題について幅広く相談を受け付け、住宅に関わる多様な問題に多角的に対応しております。

平成 18 年度は下記の通り実施いたしました。

相談日	毎月第 2・第 4 水曜日	午後 1 時～午後 4 時
相談料	1 時間	3,000 円
担 当	一級建築士	三浦 史郎

5. 夫婦・親子相談

主婦会館の各種相談業務の一環として開設された「夫婦・親子相談」は平成10年12月に開設されて以来8年余が経過し、とくに会館所在地の利便性と、相談室の落ち着いた雰囲気が高く評価されている。中でもベテランの専門スタッフが夫婦・親子間をはじめとするさまざまな人間関係や心の問題など幅広い相談に柔軟に対応し、懇切なアドバイスが相談者にとって心情的な支えになっている。

平成18年度においては、定例有料面接相談、セミナー・無料相談を下記のとおり実施した。

〈1〉定例有料面接相談

相談日	毎週金曜日	午前10時～午後4時
	予約制	1回 60分～90分
相談料	60分 5,000円	90分 7,000円
担当	(社) 家庭問題情報センター認定の家庭問題専門カウンセラー (元家庭裁判所調査官など)	

相談件数（平成18年4月～平成19年3月）

() キャンセル内数

4月……………	6件 (3件)	10月……………	7件
5月……………	5件 (1件)	11月……………	3件
6月……………	8件 (1件)	12月……………	6件
7月……………	9件	1月……………	5件 (1件)
8月……………	7件	2月……………	3件
9月……………	8件 (1件)	3月……………	8件
計……………		75件 (7件)	

相談内容

相談内容と対応	件数
夫婦間の問題への対応・調整	35
離婚後の子どもをめぐる問題への対応	6
未成年の子どもの問題への対応	3
成人した子・家庭・親族への対応・調整	19
婚姻外の男女の問題への対応・調整	0
自分の問題への対応	11
その他の問題	1
計	75

〈2〉平成18年11月26日（日）に主婦会館50周年記念イベントの一環として「夫婦・親子無料相談」を実施した。

〈3〉セミナー及び無料面接相談

社団法人家庭問題情報センターとの共催により、平成19年2月24日（土）に、セミナー及び無料面接相談「熟年離婚～どうしますかお金と心の問題～」を実施した。このセミナーは平成19年4月から施行される年金分割制度によって熟年離婚が増加すると見込まれる状況を背景に、様々な問題点を整理しながら多方面から考えていくものである。

・セミナー（午前10時～12時）

お金の問題（年金・財産分与・介護保険・転居費）と心の問題（老後の暮し方・心と身体の疾病）についてわかりやすく説明する集いを開催した。参加者は男性13名、女性37名の計50名であった。

・無料相談（12時～午後4時）

セミナー参加者のうち希望者17名と当日参加申込者8名に対して無料相談を行った。したがって相談内容のほとんどが離婚・夫婦間の問題についてだったが、その他も介護・親子関係などの家庭内についての相談だった。

◇相談者について（単位：人数）

*性別 男性・・・5 女性・・・20 計25名

*氏名 全員判明

- *年齢 10代…0 20代…2 30代…3 40代…5
50代…9 60代…4 70代…1 80代…1
- *住所 東京23区内…21 区外…8 神奈川県…18
埼玉県…2 千葉県…4 茨城…1 不明…4
- *経緯 新聞(朝日)…1 インターネット…4 市・福祉関係…6
その他(公証役場・知人・調停委員など)…6 不明…6
- *相談担当者 10名

6. 法律相談

【I】常設有料法律相談

1950年に設立された女性の弁護士、裁判官、検察官、法学研究者による全国組織・日本女性法律家協会との共催により1998年12月2日(水)より常設の有料法律相談を開設し、毎週、水・土、午前10時～午後7時まで法律相談を行っています。

日本女性法律家協会では、これまで以上に老若男女を問わず市民の皆さんが気軽に法律相談を受け、権利の実現がなされるよう、会員が法律相談にあたっています。

記

- ★相談日 毎週水曜日と土曜日(週2回)
- ★相談時間 午前10時～午後7時まで(昼休みなし)
- ★相談料 1回45分 7,875円(消費税込み)
- ★相談担当者 日本女性法律家協会の会員である女性弁護士50名が担当し、1日3名ずつ3時間で交代。
- ★予約による受付
- ★広報
 1. ホームページ開設 <http://www.j-wba.com>
 2. パンフレット配布(都内区役所、都下市役所、近県広報室、都内近郊女性会館等)

法律相談項目別件数
平成18年度（平成18年4月～平成19年3月）

	2006年										2007年			計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
1. 相続	4	2	1	3	2	2	1	1		1	1	1	19	
2. 離婚	15	20	25	13	13	15	12	11	11	8	7	13	163	
3. 不動産		1		2		2			1	1			7	
4. 損害賠償		1	2	4	2	2	3	1	1	1	1	3	21	
5. 破産		1	1		1	1				1	1		6	
6. 消費者			1			1							2	
7. 親子関係		1	1										2	
8. 刑事	1					1						1	3	
9. 賃金													0	
その他	ストーカー	2	1										3	
	DV/セクハラ	1		4	1	1	1	1	1	1	1	1	14	
	その他	2		1	7	2	1	2		1	4	3	25	
	9. 小計	5	1	5	8	3	2	3	1	2	5	4	42	
合計	25	27	36	30	21	26	19	14	15	17	14	21	265	

(複数回答含む)

何で知ったか

平成18年4月～平成19年3月

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
女性会館・区役所	7	8	14	8	6	4	4	3	4	5	3	6	72
電話帳		1			1			1			1	1	5
インターネット	3	4	5	6	5	3	5	2	1	3	3	2	42
友人・知人	2			2		1	1		1	4	2	2	15
新聞・雑誌等	5	4	4	3	2	5	1		1	2	2	1	30
ウィメンズプラザ	2		4	1	1	1	2	4	1			4	20
プラザFチラシ他	2		4	4	2	3	3	3		1	2	2	26
2回目	1	2		1	1		2						7
弁護士会・裁判所			3	1	2			1	2			2	11
白紙	3	8	3		1	3		1	5	1	1	1	27
合計	25	27	37	26	21	20	18	15	15	16	14	21	255

(複数回答含む)

【Ⅱ】無料法律相談

日本女性法律家協会との共催で実施している無料法律相談は1999年3月27日の第1回目以降、毎年開催しております。本年も4月15日（土）に実施致しました。

当日、午前10時30分からの開始にも拘らず、相談者が午前8時半から既に待っておられました。午前10時に16卓で法律相談を開始しました。今回も、2人～3人で一緒に相談に来られた方が多く見受けられました。

朝日新聞を始め、日本経済新聞、毎日新聞、読売新聞に掲載されましたので、都内はもちろん近隣の市民の相談者がありました。

本年も昨年と同様①無料法律相談のマニュアルを作成し、事前の準備がしっかりしていたこと、②相談担当の弁護士の数が多かったこと、③1人の相談時間を30分と区切らせていただいたことによりスムーズに進行できました。市民の皆様の多様な相談にお答え出来たことと思っております。

なお、相談の内容別分類、相談者の居住地、年齢別数そして無料法律相談の開催を知った理由は、表にまとめた通りです。

記

日	時	平成18年4月15日（土）	午前10時30分～午後6時
受	付	午前10時から	（先着順）
受	付	件数	152件
		実際の相談者	154件
相	談	担	当
		日本女性法律家協会の弁護士	27名
		午前10時30分～午後1時30分まで	19人（うち1人受付）
		午後1時30分～午後5時まで	15人（うち1人受付）
		延べ人数	34人

無料法律相談項目別一覧表

1. 相談内容別分類（重複あり）

相談内容		相談件数
1	相続・遺言関係	38 件
2	離婚・親族	65
3	不動産関連	8
4	損害賠償	4
5	破産・債務整理	3
6	消費者（ゴルフ会員権含）	2
7	商事・会社関係（経営・雇用）	7
8	刑事	0
9	そ	0
	の	0
	他	2
		0
		23
計		152 件

2. 相談者の居住地

区 分	人 数
東京都区内	79 人
東京都下	18
埼玉県	16
千葉県	14
神奈川県	20
福島県	1
群馬県	0
山梨県	0
その他（白紙）	4
計	152 人

4. 何で知ったのか（重複あり）

無料法律相談を知ったのは	人数
読売新聞	36 人
毎日新聞	11
日経新聞	9
朝日新聞	42
新聞（不明）	8
未来館	1
区・市役所・広報	19
各女性会館	4
友人・知人・家族	4
チラシ（プラザエフ以外も）	3
インターネット	8
プラザエフ	9
1. 当日立て看板を見て	2
2. ポスター	1
パンフレット	1
本	0
記入なし	1
その他	2
計	152 人

3. 相談者の年齢別分類

相談者の年齢	男	女	計
20 代		5	5 人
30 代	1	27	28
40 代	1	26	27
50 代	6	37	43
60 代	2	20	22
70 代	2	19	21
80 代	1	2	2
記入なし		2	2
男女(夫婦)	2	2	4
計	14	140	154 人

*最高齢の方は 85 歳

*相談者 154 人中 男性の相談者 14 人

Ⅱ 消費者教育・啓発活動

2006 年度連続セミナー

テーマ わたしたちの暮らしから環境を考える

- ・第1回「東京都水源地と水源林見学」
月 日 平成18年11月8日（水）
見 学 小河内貯水池施設、水源林など
- ・第2回「省エネ家電で温暖化防止！」
月 日 平成18年12月6日（水）
場 所 主婦連合会会議室
- ・第3回「横浜港（食料倉庫）見学」
月 日 平成19年3月27日（火）
講 師 奥村芳明氏

第50回 消費者ゼミナール

月 日 平成18年6月21日（水）
場 所 主婦連合会会議室

- ・「健康食品と広告」
講演：池上幸江氏（大妻女子大学家政学部）
報告：「健康食品の広告に関するアンケート」

「食糧問題の歩みから食品表示を見る」講演会

月 日 平成19年1月24日（水）
場 所 主婦連合会会議室
講 師 天笠啓祐氏（市民バイオテクノロジー情報室）

消費者学習会

- 4月12日 容器包装リサイクル法
- 5月10日 クレジットトラブルと消費者問題
- 7月4日 J I Sについて
- 7月19日 火災警報機について
- 9月6日 お米をめぐる最近の状況
- 9月20日 クレジットトラブル学習会
- 10月4日 水産基本計画について聞く

事業報告

衆議院憲政記念館「女性参政60年特別展」に協力。(奥むめおに関する資料貸し出し)

月 日 平成18年10月26日～11月17日

場 所 憲政記念館

Ⅲ 生活講座

創造と交流の場として講座を開設し、女性の自己開発に対して積極的な支援を行った。

①たのしい花の教室「草月流」

開催日 月3回水曜日 午後1時より午後7時30分

担当 高木春菜

普通科 テキストを参考にいける

研究科 花材をみて各自の発想で自由にいける

たのしい花の教室「池の坊」

開催日 月3回火曜日 午後1時より午後7時30分

担当 太宰邦子・玉城和子

②米倉健史のキルトアート教室

布を縫い合わせて絵を描くキルティングアートを製作します。

開催日 月1回金曜日 午後1時より午後8時

担当 彦坂泉

③鎌倉彫後藤会星野教室

開催日 月1回金曜、土曜日

担当 星野良和

IV 共催事業及び女性・健康・子育て等の事業

1. 女性の健康に関する連続講演会

---女性のためのウェルネスセミナー2006---

第1回 楽で元気な人になる

実施日 平成18年11月5日

場 所 アートフォーラムあざみ野 レクチャールーム

目 的 私たちのまわりには、今のありのままの自分のからだを肯定せず、「もっと健康に」、「もっと美しく」、「歪みを正そう」、「毒を出そう」などの商業的メッセージがあふれています。いま大切なことは、私たちひとりひとりが自分の心とからだにじっくりと向き合い、本来の自分らしいからだのありように肯定的なイメージをもつことができ、自分にあった健康法、自分にとっての快適さを見つけることではないでしょうか。第一部の講演では、「人より頑張りのきかない自分」に後ろめたさを感じてしまいがちなときも、ありのままの自分と向き合うことが大切であるということを伝えます。第二部では、リンパドレナージュやバランス能力を高めるエクササイズなど、ひとりで気楽に続けられるエクササイズの簡単な体験講習を紹介します。

内 容・講 師

第1部 講演 「楽で元気な人になる」
講師 岸本 葉子 (エッセイスト)

第2部 リンパドレナージュ体験
講師 古賀 公子 (鍼灸マッサージ師、リンパドレナージュ・セラピスト)
心とからだのエクササイズ体験
講師 藤田 麻里 (日本マタニティビクス協会ディレクター、健康運動指導士)

第2回 「なぜ女性に摂食障害が多いのか」

実施日 平成18年11月25日

場 所 佐賀県立女性センター (アバンセ)

目 的 若い女性に多い摂食障害 (拒食症・過食症) は、今や40代くらいの女性にも広がっています。多くの女性がダイエットをしています。摂食障害はダイエットの延長線にあるものなのか、それとも全く違う次元のものなのか? なぜ摂食障害が起こるのか?

ジェンダーとの関係は？ メディアの影響は？ など多くの人が感じている疑問について理解を深め、女性の生涯の健康という視点で、私たちはこの問題をどう捉えていくかについて考える機会をもつことを目的とします。

内 容・講 師

第1部 摂食障害を扱ったドキュメンタリー映画上映

「私をみつめて～やせてキレイになったのは誰のためだったんだろう～」

第2部 当事者が語る「わたしに起きたこと」

柳瀬京子（ほっと Cafe 主宰）

柳瀬映二（ほっとさぼーと主宰）

第3部 講演 「女性であることと摂食障害」

講師 内藤和美（女性学研究者、群馬バース大学教授）

第3回 「～弱い自分も好きになる～自分にやさしくしてみたら・・・ 軽やかな心になるためのふたつのワークショップ」

実施日 平成18年11月25日

場 所 主婦会館プラザエフ

目 的 人は抑圧されると自分に自信が持てなくなり、感情が素直にだせなくなります。たとえば、人の世話ばかりで自分のことを後回しにし続けたり、周囲に気を使って自分を抑え続けたりしていると、自分の感情に信頼が持てなくなり、ひきこもりやうつを引き起こすことにもつながります。「抑圧」があるかぎり、他者とはもちろん、自分自身とさえもいい関係は築けません。こちよい人間関係を築くためにまず必要なのは、自分の気持ちを素直に感じ、受けとめること。自分と仲良くなるのが人とのいい関係を築く出発点となるのです。自己肯定感を高め、自分自身との幸せな関係、そして他者との幸せな関係を築くためにはどうすればいいのか、アサーティブネスの理論を用いて、ありのままの自分をそのまま認め、自分の中から湧き出てくる力に気づくことを目的とします。

内 容・講 師

ワークショップⅠ 「～胸の底の気持ちをことばにしてみる～アサーティブネスの基本
自分も相手も大切にしたい対等で率直なコミュニケーション」

講師 木村久子（アサーティブ・トレーナー）

ワークショップⅡ 「世界にただひとつの、私の＜セルフケア・バッグ＞を作ろう」

講師 今成 知美（ASK代表）

第4回 「知っていますか？ 10代にひろがる性感染症（STD）
～自分のからだは自分で守る 『保健行動』が選択できる10代に～

実施日 平成18年11月25日

場 所 主婦会館プラザエフ

目 的 ある調査では、高校生の40%が「性経験あり」と回答し、そのうちクラミジアの感染率は16歳女子、17.3%という驚くべき数字が出ています。STDはいまやごく身近な感染症であり、10代にとっての緊急課題であることを、本人はもちろん、保護者も知り、正しい知識を身につける必要があります。

内 容・講 師

1部 講演 10代にひろがるSTD

講師 堀口 雅子（主婦会館クリニック産婦人科医師、
性と健康を考える女性専門家の会会長）

ビデオ上映 『正しく知る！ 性感染症・エイズ Q&A』

2部 対談 ストップ！性感染症

講師 北沢 杏子（アーニ出版共同代表、「性を語る会」代表）

堀口 雅子（主婦会館クリニック産婦人科医師、
性と健康を考える女性専門家の会会長）

2. 女性の健康に関する小冊子の製作

タイトル 『自分にやさしくしてみたら』

内容 女性のためのウェルネスセミナー2006の内容をまとめた小冊子
(2色刷り 24ページ)

1. アサーティブネス
2. 心とからだ
3. 摂食障害
4. 性感染症

部数 2万部

目的 女性のためのウェルネスセミナー2006の内容を紹介し、女性の健康に役立つ情報をより多くの人と共有し、広めることを目的とする。全国の女性関連施設、保健センター、女性専用外来のある診療所に無料配布したほか、ホームページでの広報を通じて、希望する団体、個人に無料で送付。

3. ティーンズカフェ（女の子のための身体と心の相談室）

平成18年6月に事業を開始した。10代の女の子のからだの悩み、性に関する悩み、心配事を気軽に相談できる場所として、無料相談室を開設。相談内容により、必要に応じて適切な医療機関を紹介した。主婦会館クリニックでの診療やカウンセリングへ連携するケースもあった。教育現場の方（教師、養護教諭など）、保護者の方からの相談も受け付けている。

18年度は、PR不足により、相談者は毎月1～2名程度であった。

相談の内容は、月経不順や、無月経、小学生での初交など。少女がひとりで相談に来るケースと、母娘の二人連れで来るケースがおよそ半々である。

今後は様々なメディアを使つてのPRにつとめ、より事業を発展させていきたい。

対 象 小学生～高校生までの女子

先生、保護者などからの相談も可

相談日 毎週 木曜日 午前10時～午後6時

予約制 一回 15分～30分

相談料 無料

担 当 産婦人科医師 堀口 雅子

4. 「子どもを犯罪から守るキャンペーンポスター展」

一階ロビーにて、企画展示「---加害者にも被害者にもさせない---子どもを犯罪から守るキャンペーンポスター展」を開催。子どもを犯罪から守るといふ目的で作られた、国内外のポスター、小冊子、また子どもを犯罪から守るための様々な取り組みの紹介、安全教育教材の紹介を行った。スタートは17年度末（18年2月）であるが、常設的に18年度も継続し、適宜情報更新、展示替えを重ねて、内容を充実させた。

目 的 子どもが被害者となる犯罪といっても、性犯罪、誘拐、少年同士の暴行事件、そして本来子どもを保護すべき立場の大人から受ける虐待など、様々な形態がある。子どもたちを守ること、また子どもたち自身が自分を守れるようになることに、ひとりでも多くの人に関心を寄せて、何かできることはないかと考えるきっかけとなること、および防止のための対策、取り組みの紹介など、関連情報の提供が本展覧会の目的である。

5. 主婦会館50周年記念イベントの開催

開催日 平成18年10月21日（土）、22日（日）

財団法人主婦会館の創立50周年記念イベントを開催した。

催し物

上映会、講演会など

- ・チャリティー上映会&トーク『デック～子どもたちは海を見る』
- ・トーク 「榎そのさん『おしゃもじ時評』を語る」（主婦連合会と共催）
- ・妊娠出産学校クラスママ in 主婦会館
- ・マンション維持管理講座・公開相談会

無料相談

- ・女性弁護士による無料法律相談
- ・夫婦・親子相談

バザーなど

- ・朝市（主婦連合会と共催）
- ・フリーマーケット（主婦連合会と共催）
- ・アジア雑貨のチャリティーバザール（協力：地球市民 ACT かながわ）

展示

- ・榎 その 原画展（主婦連合会と共催）
- ・生活講座 作品展

*各催しの報告は以下のとおりである。

■チャリティー上映会&トーク『デック～子どもたちは海を見る』（共催：主婦連合会）

月 日 平成 18 年 11 月 25 日

場 所 地下 2 階 クラルテ

内 容 チャリティー上映 『デック～子どもたちは海を見る』
トーク 「家族、自立、教育・・・新しい視界をひらくフィルム」

ゲスト 近田 真知子（地球市民 ACT かながわ代表）

”デック”はタイ語で”子ども”の意味。タイ北部の山岳地帯に、山岳民族の子どもたちが、自給自足の生活を送りながら先生と暮らす、小さな全寮制の学校がある。生まれてから一度も山岳地帯から出たことがなく、一度も海を見たことのない子どもたちが、卒業記念に海を見に行くまでの学校生活を描いたドキュメンタリー映画。収益は全額、タイ山岳民族の子どもたちの就学支援にあてられた。

参加人数 約 50 名

■ 「榎そのさん『おしゃもじ時評』を語る」（共催：主婦連合会）

月 日 平成 18 年 11 月 26 日

場 所 3 階 主婦連合会会議室

内 容 主婦連合会の機関紙、主婦連たよりに50年間、600点以上の風刺画を描き続けてきた
榎そのさんに、様々な思い出やエピソードをお聞きしました。

参加人数 約60名

■妊娠出産学校クラスママ in 主婦会館

月 日 平成18年11月26日

場 所 7階 カトレア および 8階 パンジー

内 容 妊娠中や赤ちゃん連れのお母さんが、気楽に相談したり、体験したりできる
イベント。

◆基調講演 妊婦の皆さんへ「幸せなお産って？」

講師 産婦人科医 堀口貞夫

◆セミナー 「母乳育児を楽しもう！」

講師 つつみ治療室・助産師 堤 尚子

◆セミナー 「タッチケアを体験してみよう！」

3～5ヶ月の赤ちゃん&お母さん向け

タッチケアトレーナーによるタッチケアの講習

◆セミナー 「クラス ド ボーテ～もっと美くなるレッスン」

妊娠中のスキンケア、足のむくみ対策、バストラインのケア、
妊娠線予防などについてのセミナー

参加人数 合計約50名

■マンション維持管理講座・公開相談会

月 日 平成18年11月26日

場 所 8階 スイセン

内 容 都市居住の主要な住宅として定着してきたマンションは、多くの人の区分所有による意思
決定の難しさ、計画的な修繕を適時適切に実施することの難しさや、世論を騒がせている
耐震偽造問題、エレベーター事故など大事に関わる問題も後を立たず、より複雑で多くの
課題を抱えています。今回は、管理組合の立場でマンション維持管理に関する取組みを行
っている「マンション維持管理支援専門ネットワーク」の協力を得て、“マンション維持
管理講座・相談会”を行った。

◆講座 「マンション住民の無関心 ～今そこにある危機～」

講師 柁宜 秀之氏 (マンション管理士)

配布資料をもとに講座を実施

◆専門家による公開相談会

相談員 榎本 武光氏 (弁護士) 祢宜 秀之氏 (マンション管理士)
三浦 史郎氏 (一級建築士)

相談会での主な質問

エレベーター事故について・リフォーム工事について・排水管更新について
総会議決書の委任制度について・総会議事録について・ペット問題について

参加人数 約40名

■女性弁護士による無料法律相談

月 日 平成18年11月25日

場 所 4階 シャトレ

担 当 日本女性法律家協会の女性弁護士

内 容 法律家協会の中でもベテランの女性弁護士7名によって相談が行われた。相談者は24名(男性2名、女性22名)、年齢別では特に30代~50代の方が多く、70才以上の相談者も4名いた。相談内容は離婚・親族に関するものが過半数を占め、次いで相続・遺言、不動産関係であった。いずれも法律的な側面から適切なアドバイスや解決方法を得たいと願う姿勢が顕著であった。当日はスムーズに進行できた為、待ち時間も少なかった。また、相談後、改めて定設の有料相談に予約をされる相談者もいた。

■夫婦・親子無料相談

月 日 平成18年11月26日

場 所 4階 シャトレ

担 当 社団法人家庭問題情報センターの相談員

内 容 5名のカウンセラーが相談に応じた。相談者は少人数ではあったが、その分時間に縛られること無く一人ひとりが落ち着いて相談可能であった。夫婦・親子間というデリケートでかつ、深刻な問題であるだけに、一人で抱え込んでしまう前に今回のような誰でも気軽に相談できるような機会を今後も作ることが大切なのではないかと実感した。

■朝市(共催:主婦連合会)

月 日 平成18年11月25日、26日

場 所 正面玄関前

内 容 産地直送の農作物、加工食品などを販売。安全性への心配りがなされた旬の野菜・果物、オーガニック&フェアトレードのコーヒー豆、お団子などが人気を集め、近隣の人々を含め多くの方が買い物に訪れた。

■フリーマーケット（共催：主婦連合会）

月 日 平成18年11月25日

場 所 地下2階 クラルテ

内 容 事前に募集した参加者が、おのおの持ち寄った品物を販売した。まだ使えるのに不必要になった物は、捨てればゴミだが、リサイクルすれば立派な商品である。使い捨てに慣れてしまった私たちの暮らしを見直し、環境型社会に変えていく観点からも、フリーマーケットは意味を持つ。大変盛況であった。

■アジア雑貨のチャリティーバザール（協力：地球市民 ACT かながわ）

月 日 平成18年11月25日、26日

場 所 1階 ロビー

内 容 地球市民 ACT かながわの協力を得て、タイなどアジアの手工芸品の販売を行った。ガラス張りの一階ホールという場所の良さもあり、多くの方が足を止めて買い物をした。売り上げはタイの子どもたちの就学支援にあてられた。

■榎 その 原画展（共催：主婦連合会）

月 日 平成18年11月25日

場 所 3階 展示室

内 容 主婦連合会の機関紙、主婦連たよりに掲載された、時代を反映した風刺画の原画を展示。

■生活講座 作品展

月 日 平成18年11月25日、26日

場 所 9階 スズラン

内 容 主婦会館の生活講座として開設している、鎌倉彫、草月流いけばな、池坊いけばな、キルトアート教室の日頃の成果を発表する作品展。

V 全国女性会館協議会

○全国婦人会館協議会 交流・研究集会 第50回全国大会の開催

全国の婦人会館が集い親睦と情報を交流し、会館事業の発展に寄与する事を目的として、昭和31年に発足し50年を経過した。全国各都市に於いて建てられている婦人会館・女性センターは現在200館を越えている。主婦会館は、それら女性関連施設の事業を助成するようつとめてきた。交流・研究集会は創立以来全国大会を年1回各県まわり持ちで開催。全国から女性会館を運営する関係者が集まり、相互の交流をはかり、今後のよりよい運営について研修し、時代にそくした女性会館の運営に役立つ事を趣旨として開催している。

本年度は第50回とし、財団法人 主婦会館（プラザエフ）に於いて官公庁を含む63館、105名出席のもとに開催された。

と き 平成18年10月18日（水）・19日（木）（2日間）

主 題 「女性関連施設が築いてきたもの、そして明日へのチャレンジ」

第1日 平成18年10月18日（水） 会場 財団法人 主婦会館（プラザエフ）

(1) 全国女性会館協議会総会

議長 財団法人 日本女性学習財団 理事長
仙台市男女共同参画推進センター 館長

大野 曜氏
渡邊 兼光氏

(2) 「婦人会館50年を語る会 中村紀伊会長を囲んで」

第2日 平成18年10月19日（木） 会場 財団法人 主婦会館（プラザエフ）

(1) テーマ別情報交換

1. 指定管理者制度への対応

コーディネーター 尼崎市女性センター所長

須田 和氏

2. 民間企業との連携

コーディネーター 仙台市男女共同参画推進センター・エル・ワラ仙台館長

渡邊兼光氏

3. NPOとの協働

コーディネーター 男女共同参画センター横浜北副館長 岩舟弘美氏

4. チャレンジ支援事業への取り組み

コーディネーター 埼玉県男女共同参画推進センター所長 加藤直子氏

(2) 助成事業報告と募集

(3) 50周年記念レトリーク～女性関連施設が築いてきたもの、そして明日へのチャレンジ

内閣府男女共同参画局長 板東久美子氏

文部科学省生涯学習政策局長 田中壮一郎氏

読売新聞社調査研究本部主任研究員 北村 節子氏

お茶ノ水女子大学客員教授 河野貴代美氏

中央大学教授 広岡 守穂氏

マイクロソフト株式会社社会貢献部長 竹原 正篤氏

十文字学園女子大学教授 橋本ヒロ子氏

国立女性教育会館理事長 神田 道子氏

大阪府立女性総合センター 竹中恵美子氏

横浜市男女共同参画推進協会顧問 有馬真喜子氏

日本女性学習財団理事長 大野 曜 氏

VI 施設の運営

NPO法人の増加、セミナー利用に伴うコンサルタント系の利用が目立つ。ウィークデイと週末の多種多様な目的利用がなされている。

(図表参照)

利用内容	団体 (件)	利用人員 (人)
レストラン		48,462
会議室等		
女性団体	28	
一般団体	787	
会社	1,580	143,935
個人	132	
その他	98	
相談室等		3,344
合 計	2,610	195,741